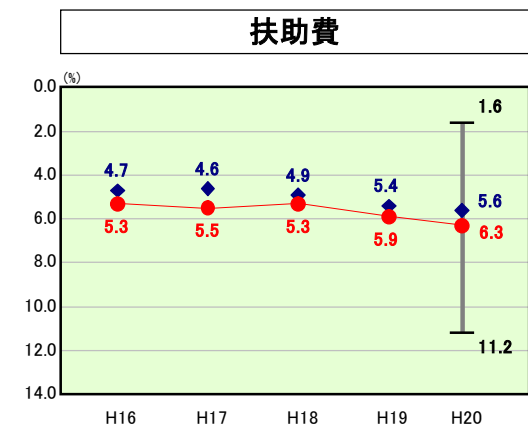
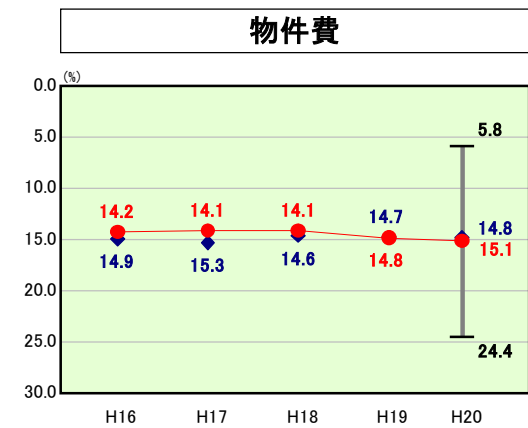
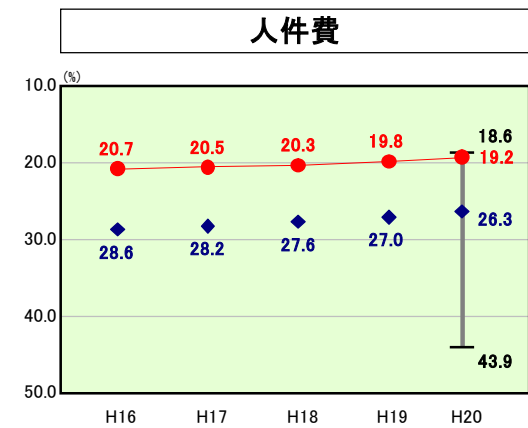
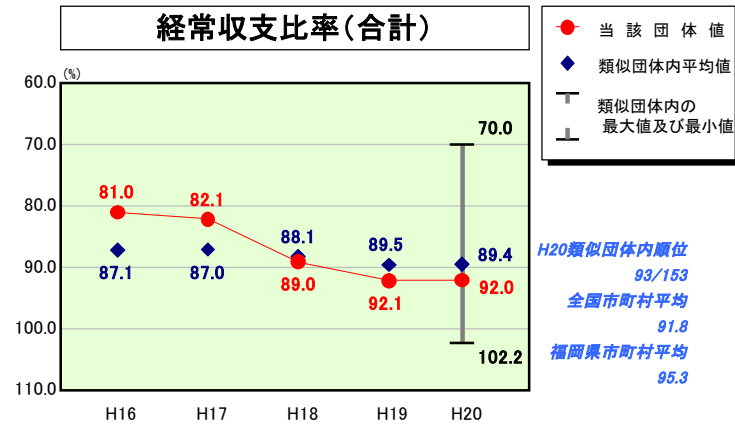
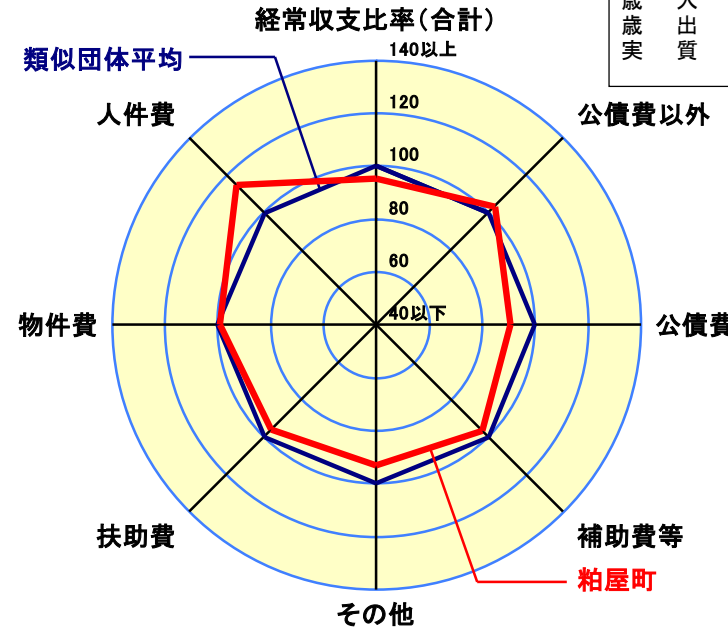


歳出比較分析表(平成20年度普通会計決算)

経常収支比率の分析



人口	41,050人(H21.3.31現在)
面積	14.12 km ²
標準財政規模	7,699,466千円
歳入総額	10,710,494千円
歳出総額	10,204,267千円
実質収支	472,819千円



- ※1 本レーダーチャートは、当該団体と類似団体平均値より算出した偏差値をもとにチャート化したものである。(偏差値は平均を100としている。)
- ※2 当該団体の八角形が平均値の八角形より外側にあるほど、歳出抑制等により財政構造に弾力性があることを示している。
- ※3 類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。

分析欄

◎人件費
 類似団体を大きく下回っており、平成16年度から連続して減少している。
 ◎物件費
 従来より経費節減に努め平成18年度まで類似団体を下回っていたが、妊婦健診委託料及び臨時雇賃金等の増加により若干高くなっており、毎年人口が増加しているなか住民サービスの向上を図っている。
 ◎扶助費
 制度改正に伴い児童手当、乳幼児医療費等が全国的に上昇しているなかで、人口の増加、また高い出生率が原因で対象人員が増加し支出増加が続いており、今後も増加することが見込まれる。
 ◎公債費
 公債費は年々増えているが、平成19年度・20年度の繰上償還により償還のピークは過ぎたものの、償還額は横ばいであり新規発行債の抑制を続ける必要がある。
 ◎補助費等
 補助費については、平成17年度から類似団体平均を上回っている。平成15年3月に完成した須恵町外2ヶ町清掃施設組合ごみ処理施設クリーンパークわかすぎの管理運営費並びに建設事業債の元利償還が始まったことなどにより、構成団体の負担金が毎年増加している。そのため、リサイクルボックスの設置等ごみ減量化へ努め管理運営費の抑制を進めている。
 ◎その他
 国民健康保険特別会計、介護保険特別会計、流域関連公共下水道事業特別会計への繰出金が原因で類似団体平均を大きく上回っている。国民健康保険特別会計は、平成19年4月、20年4月に保険料率の改定を行っており、後期高齢者医療制度の新設により高齢者への医療費負担が減少、さらに特定健診の実施により特定疾病等重症化の早期発見の強化による医療費の減少に努める。流域関連公共下水道事業特別会計は、新規事業債の抑制による公債費の減少に努めている。

